

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立名護屋小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○「道徳教育の実践」… 講師を招聘して、人権・同和教育の授業実践に関する職員研修や年間6回の授業研究会を行った。全教員が「考え、議論する道徳」の授業実践を行い、授業研究会を実施することで、教員間での共通理解を図ることができた。</p> <p>○「認め合う取組 ○○名人」… 毎月の生活のめあてを児童に意識させ、月ごとに○○名人の認定証を渡し、動機付けを行ったことで、ほぼ全員○○名人になることができた。</p> <p>○「スポーツチャレンジ」… スポーツチャレンジは、どの学年も積極的に取り組み、記録に挑戦する姿が望ましい学級づくりにつながっていた。</p> <p>前年度に引き続き、今年度も、家庭や地域との連携をさらに密にし、子供が内発的動機付けのできる授業づくりや生活指導・健康指導をすることで、「自分から学び、仲間と協力し、共に高め合う子供」の育成を徹底して取り組んでいきたい。</p>
2 学校教育目標	「共に、学び合い、支え合い、高め合う仲間」
3 本年度の重点目標	<p>(1) 学級経営の充実 (2) 確かな学力の定着 (3) 豊かな心の育成 (4) 特別支援教育の充実</p> <p>(5) 健康・安全教育の充実 (6) 生徒指導の充実 (7) 家庭や地域との連携</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	●	●	●	●	●	●	学び部 学力向上コーディネーター 研究主任	
	○基礎的・基本的学習内容の定着	○海育中校区各学年の家庭学習目標時間の達成率を90%以上。 ○家庭学習提出率を90%以上。 ○学習用具の準備率を90%以上。	・家庭学習を工夫し、授業に生かしたり、個別指導に生かしたりする。 ・学校だより、学級だより、保護者会などで呼びかけ、家庭との連携を緊密にする。	●	●	●	●	●	●	学び部 学力向上コーディネーター 研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全児童が、「○○名人」に1回はなるようにする。 ○相手を尊重する呼称(さん、くん)をつけることのできる児童を90%以上にする。 ○進んで挨拶ができる児童を90%以上にする。	・内発的動機付けのできる児童の育成を心掛け、意識をして指導をしていく。 ・生活のめあてに準じて、月ごとに○○名人の認定証を渡し、動機付けを行う。 ・学校だよりや保護者会などで呼びかけ、家庭との連携を図る。 ・席りの会等に友だちの良さを見つけさせる等認め合う場を設ける。	●	●	●	●	●	●	豊か部	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○Q-Uテストで「学級生活満足群」の割合を60%以上にする。 ○いじめ未解決件数を0件にする。	・心のアンケートを各学期に1回実施し、状況把握に努める。 ・実践的な教職員の校内研修を1回以上実施する。 ・Q-Uの結果を基に、SCや専門機関等と協力しながら良好な対人関係を築く。	●	●	●	●	●	●	生徒指導主任	
	○人権教育の推進	○人権・同和教育の授業実践に関する職員研修や授業研究会を行い、各教科、道徳、特別活動などと関連させながら、「心を耕す」取組へと広げていく。 ○児童へのアンケートを実施し、「友達に思いやりの気持ちをもってやさしく接している」という設問で児童の回答を3.3/4.0ポイントを上回るようにする。	・道徳の時間を要し、各教科、特別活動など教育課程全般で道徳教育の推進と教員間の理解を図りながら、思いやりの心を育てる指導を行っていく。	●	●	●	●	●	●	人権・同和教育主任 研究主任 道徳教育推進教員	
	◎志を高める教育	◎児童にアンケートを実施し、「自分の目標に向かって進んで取り組むことができた」と回答する児童を3.3/4.0ポイント以上にする。 ◎児童にアンケートを実施し、「掃除や給食当番、係活動を自分から進んで取り組んでいる」と回答する児童を3.3/4.0ポイント以上にする。	・児童に達成可能な目標を立てさせ、目標達成に向け活動できるよう指導や支援を行うようにする。 ・掃除や給食当番、係活動に責任をもち、友達と協力して活動させ、やり遂げたことを発表する場や認め合う活動を設定し、自己有用感や自己肯定感を高める。	●	●	●	●	●	●	●	教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食は大切である」と考える児童を90%以上にする。	・給食の時間を中心に、教育活動全体で食に関する指導を実践していく。 ・学校栄養職員と連携を図り、食の大切さを児童に理解させていく。	●	●	●	●	●	●	養護教諭 たくまし部	
	○「運動習慣の改善や定着化」 ○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○スポーツチャレンジの学年の取組率を100%にする。 ○「週に3回以上外遊びをする」という児童を90%以上にする。 ○朝食の摂取率を90%以上にする。	・スポーツチャレンジの記録を毎回更新しようとする意欲を継続するために、記録を掲示したり学級だよりで広報したりする。 ・教員や委員会からの広報により外遊びを奨励したり、外遊びをよくしている学年を称賛したりして、児童の意識を高めていく。 ・朝食を摂るよさを児童に理解をさせるとともに、学校だより、給食だより、保健だより等で、保護者を啓発していく。	●	●	●	●	●	●	●	教務主任 たくまし部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定し、職員に積極的に周知することで、1週間に1日の定時退勤を徹底する。	●	●	●	●	●	●	管理職	
	○勤務時間の適正化	○会議や事務の効率化を図り、教職員が児童に向き合う時間を確保する。 ○定時退勤日の周知を徹底し、実施率を90%以上にする。	・会議時間の設定や資料の事前配布等を確実に実行。また、3部会を機能させ、組織が業務に向かうような体制づくりに努める。 ・週1回の定時退勤日の徹底と退勤システムの利用により、ワークライフバランスを整える。	●	●	●	●	●	●	管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○学校だよりを月1回以上発行し、学校ホームページ、はなまる掲示板の更新を月1回以上行い、学校教育の情報を公開する。	・学校だよりの発行、学校ホームページやはなまる掲示板の更新を月1回以上行い、学校教育の情報を多方面に発信する。	●	●	●	●	●	●		校長 教頭 教務主任
○特別支援教育の推進	○特別支援教育の充実	○月に1回以上は特別支援委員会等を開催し、教員間で情報共有を行い、特別支援教育の充実に努める。	・子どもたちが安定した学校生活を送れるように、一人一人が主人公の学校づくりに努め、常に児童に寄り添った指導を心がける。	●	●	●	●	●	●	特別支援コーディネーター	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・ 次年度への展望											